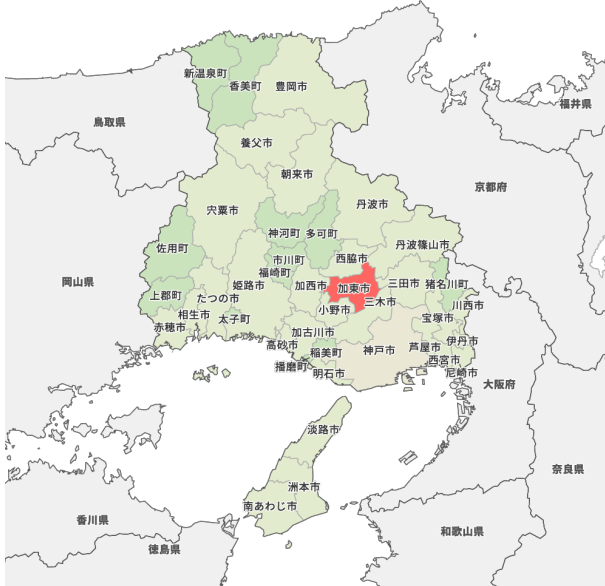


2024年5月13日(月) 兵庫県加東市

テーマ 「義務教育学校」



- 人口 39,703人
- 世帯数 17,384世帯
- 面積 157.55km<sup>2</sup>
- 当初予算総額(令和6年度)  
413億6061万円
- 位置・特徴

兵庫県の中央部やや南よりに位置し、市の中央部を東西方向に中国自動車道が、市の西部を南北方向にJR加古川線、一級河川である加古川や日本標準時子午線が通る。酒米「山田錦」の一大産地でもある。

新幹線西明石駅より、JR神戸線、加古川線を乗り継いで社町駅よりバスで20分ほどに位置する義務教育学校「東条学園小中学校」を視察。

東条東小学校(145年)、東条西小学校(128年)、東条中学校(57年)が、令和3年3月末に閉校となり東条学園小中学校(義務教育学校)が誕生。児童生徒合わせて500名規模ということもあって義務教育学校を選択している。よって校長1名、教頭3名(統括・小学校・中学校)という管理職構成である。

新設された校舎はスペースにも余裕があり、児童生徒たちが楽しそうに学校生活を送っている。1年生から9年生までを1年生から4年生、5年生から7年生、8年生から9年生という3つのブロックに分けて教育活動に取り組んでいる。

統合については市長のトップダウンで構想が始まったそうで市民との調整は大変苦労したということである。こういった話は全国各地で耳にするが少子化が加速する地方では小中一貫校や義務教育学校が増え続ける一方である。

加東市でも今後さらに小中一貫校2校の開校が予定されている。それに伴いスクールバスの運行は21台にも及ぶ予定で運転手の確保など課題も山積みとのこと。

神奈川県においても同様の取り組みが既に始まっており、平成28年3月のパンフレットには北中学校区の実践が掲載されている。

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/10333/h31gaidob3.pdf>

ちなみに本市の最新資料には以下のようなことが書かれている。

"義務教育学校の制度を導入することで、本市の強みである 園小中一貫教育の取組を、法的・制度的な面においても、より具現化し、子どもたちの円滑な「育ちと学び」を深化することができます。"

"小学校6年間と中学校3年間を一貫した1つの学校で生活を送ります。義務教育9年間を見据えて学ぶことで、安定した学校生活を送ることができます。"

<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/www/contents/1714532412334/index.html>

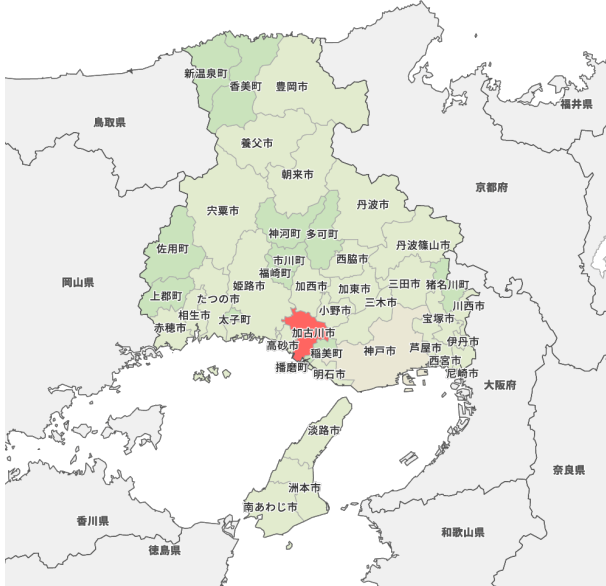
小中一貫校ではなく、なぜ義務教育学校なのか。学校の統廃合についてスケジュールは具現化されているのか。「はだの2030プラン」との整合性はあるのか。そして何よりも子どもたちのためになるのか。教育活動の視点、財政的な視点、まちづくりの視点など、様々な視点から議論していきたいところである。

#### 【参考となる URL】

東条学園小中学校 <https://www.city.kato.ed.jp/tojogakuen-sc/>



2024年5月14日(火) 兵庫県加古川市  
テーマ 「高齢者見守りサービス」



- 人口 255,533人
- 世帯数 110,305世帯
- 面積 138.48km<sup>2</sup>
- 当初予算総額(令和6年度)  
1808億4000万円

○位置・特徴

兵庫県の播磨地方の東側に位置し、東播磨の中核をなす。重化学工業地帯や大型量販店の激戦区となっている南部と、農村風景が残るのどかな雰囲気のある北部とで全く違う景観があり、二面性が見られる。

加古川市役所には議場棟がある。その一室で以下のような事業について説明があった。

1 加古川市地域見守り活動に関する協定

新聞店をはじめ電力会社や銀行、商店などが35の事業者が提携している。基準に沿って各事業者によって高齢者・地域福祉課へ情報提供ができる。その内容によって円滑な対応が可能になっているとのこと。

2 認知症高齢者等の見守りサービス

認知症により行方不明の恐れがある高齢者等の安全を確保し、家族等の身体的・精神的負担を軽減を図るため、見守りサービス(見守りタグ)の費用を市が負担している。

3 緊急通報システム

概ね65歳以上の一人暮らし高齢者等に緊急通報システムの家庭用端末を貸与している。一人の利用者につき近隣協力員3名を確保して日常から見守りに役立てているとのこと。こうした地域連携はコミュニティの維持にも重要な仕組みになっているようである。

4 認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク

認知症により行方がわからなくなった方を地域の関係機関等の協力を得て、早期発

見・保護をするためのネットワーク。希望者には、地域包括支援センターや民生委員・児童委員などが訪問や声かけなど、日頃から見守りを行っている。

## 5 高齢者実態調査

民生児童委員が高齢者の世帯状況や、緊急時の連絡先を把握するため、訪問調査を行っている。

## 6 どないや訪問

老人クラブ連合会が、一人暮らし高齢者等への訪問活動を実施している。

こういった連携もあると重層的な支援につながっていくと思われる。

更に高齢化が加速する時代。認知症のために行方不明になる方も増えていく。医療現場でも病院などの施設から在宅ケアの充実という流れもあることから、こういった見守りサービスの充実は欠かせない。本市においても見守りキーホルダーが交付されているが、より一層の充実を求めたい。

加古川市には見守りカメラが1475台、高度化見守りカメラが150台があり、こちらと見守りタグが連動して位置を知らせてくれるが、これだけの設置台数となると設置費用と経常経費は相当なものである。よって、人と人のつながりを大切にしたい見守りサービスの充実と図ることがより大切なのではないかと考えさせられた。やはり頼れるのは地域コミュニティである。

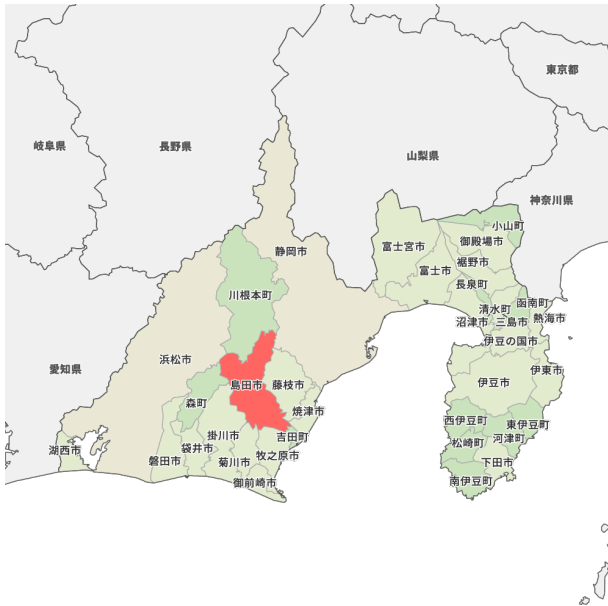
### 【参考 URL】

加古川市見守りサービス

<https://www.city.kakogawa.lg.jp/soshikikarasagasu/shiminbu/shiminseikatsuanshinka/ICT/1527646378963.html>



2024年5月15日(水) 静岡県島田市  
テーマ 「こども館」



- 人口 95,091人
- 世帯数 39,478世帯
- 面積 50.45km<sup>2</sup>
- 当初予算総額(令和6年度)  
852億7299万円

○位置・特徴

静岡県の中部、大井川の両岸に位置し、江戸時代には東海道の宿場町として栄え大井川では人足による川越制度あった。「地球上でもっとも緑茶を愛するまち」を標榜するお茶の一大産地である。

島田市こども館は JR 島田駅近くにありかつてはショッピングビルだった跡地を中心市街地交流拠点施設として市が整備。1階には11年間営業していたCOOPが入っていたが本年3月に閉店、2階と3階が市立図書館、4階が「こども館」、10階建ての建物ですが5階以上はマンションになっている。

ボーネルンド社が監修したという「プレイルームぼるね」は近隣自治体からも来館者がある人気スポットになっている。

ギアのかべ、マグネットボード、マグフォーマー、プレイシップがある静の広場。クライミングウォール、ボールプール、エアトラック、サイバーホイール、エアキヤッスル、イマジネーション・プレイ・グラウンドがある動の広場。さらに乳児コーナーなど充実した遊び場があり、子どもたちの年齢や特徴に配慮された施設である。

運営するスタッフは全て保育士であり、一時託児やファミリーサポートも充実している。専門職が配置されていることが来館者の安心に繋がっているようである。

その一方で全国各地に見られる保育士不足の悩みは島田市も同様のようであった。県内にある教育関連の学科を持つ大学等の連携などにより、今後の保育士充足に努めているとのこと。

本市においても県道705号線の整備エリアや既存の商業施設内に子どもや保護者が安心して楽しめる場所があると良いと思うが、公共施設再配置計画も念頭に置きながら施設整備を検討していく必要があると考えさせられた。

【参考となる URL】

島田市こども館 <https://www.birukan.jp/shimadakodomokan/>



まとめ

今回の所管事務調査で特に考えさせられたことは、私たちは人口減少にどのように向き合えばよいのかということである。

加東市では市町村合併前の3つのエリアで学校統廃合という選択をしている。全国各地で毎年500校もの学校が閉校している現実を目の当たりにして、本市でも想定以上に早い段階で同じような局面に入るといった想定で施策を打つことが必要なのではないかと思った。

加古川市においては加速する高齢化について考えさせられた。認知症が増えると徘徊だけでなく防災や人権の観点からも多くの問題が生じるのではないかと思う。予算をかけてデジタルに頼るのも大切であるが、人と人の繋がりをいかに維持するのも大きな課題であると考えさせられた。

島田市ではこども向け施設の充実はもちろん大切であるが少子化が加速してしまっ  
ては意味が薄れるので、より広い視野で考え続けたいという思いに至った。

各委員、議会局の皆様、そして対応して下さった各市の皆様にご感謝いたします。